

ウムチョ ムィーザ通信

No. 56

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

理事長あいさつ

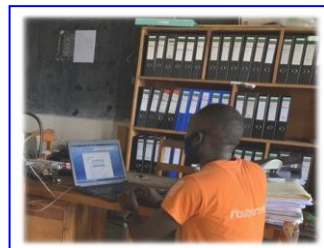
ルワンダの教育を考える会理事長
永遠瑠マリールイズ



日頃より、ルワンダの教育を考える会を支えてくださっている皆様に感謝申し上げます。2020年度を迎えて、ルワンダの教育を考える会は20周年記念を祝うつもりでワクワクしていました。しかし、この期待は、新型コロナウイルス感染症によって壊れてしまいました。皆様はそれぞれの場所でのどのように過ごされているのでしょうか？

2020年3月20日ルワンダの空港に着いてから、はや4ヶ月が過ぎました。4月30日帰国予定でしたが、空港が閉鎖されたまま今日を迎えています。

3月21日からルワンダはロックダウンに入りました。ウムチョムィーザ学園の保護者の中には日雇い労働者もあり、学費を払うのに大変苦労しています。それでも1学期分の学費を3月の学期末試験前に払おうと頑張っていました。しかし、試験前に全国の学校が休校になってしまいました。さらに、国の方針により1月から始まっていた1学期を制度改正し9月から1学期が始まることになりました。そこで、学園の収入が激減した中で、いかに先生方やスタッフを解雇せずに維持できるか、そして、子ども達の学習のフォローをどうしていくかが重大な課題となりました。政府は、貧しい家庭に食料を配布しています。学園としては、毎日先生方にアプリを使用してリモートで授業をしていただいています。パソコン・スマートフォンを持っていない家庭には、プリントを配布しています。



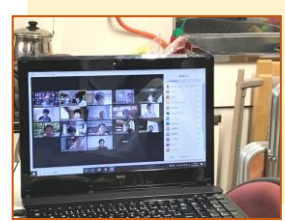
最貧困地域ミヨベプロジェクトでは、日本の皆様の支援によりECD&Fセンター（早期幼児教育施設）に通っている子ども達に昼食とおやつを毎日提供出来ています。4月11日、キガリの事務所で作った料理を持って、子ども達に会いに行きました。栄養失調で命の危険にさらされていないか心配でしたが、子ども達の笑顔にふれてこちらまで元気になりました。



今回、学園の卒業生10人に将来の夢を聞くことが出来ました。学校の先生・エンジニア・パイロットその中でも5人が「医者になりたい」と答えました。一人の子は「世界にこれから起きるいろいろな病気を研究してワクチンなどをつくれる人になりたい」と語ってくれました。コロナ禍の中でも生きていれば、そして学んだことがあれば希望と夢を持ち続けることが出来ます。このような言葉を聞くことが出来たのは、日本の皆様の支えがあったからです。心から感謝します。

世界中の人々が一日も早くもとの生活が出来るように祈って、しばらくはルワンダで頑張りますので、どうかよろしくお願いいたします。

2020 年度 通常総会報告



2020年6月14日（日）福島市で開催された通常総会の概要を報告します。

今年度は、世界的に広がった新型コロナウイルス感染症の影響で、理事長マリールイズがルワンダから戻れないこともあり、ZOOMを使つての総会となりました。

20代から70代まで、全国各地から、また理事長はルワンダからの参加となりましたが、皆、遠くにいながらず近くにいるような和やかな雰囲気で行われました。

1. 2019(平成31・令和元)年度事業報告

- (1) マリールイズが全国各地 68ヶ所で講演活動
- (2) ウムチョムイーザ学園支援

昨年11月には6年生38名が卒業し中学校に進学した。学園の卒業生は2007年から数え今回13回目、これまで363名が巣立った。現在は、幼稚園と小学校合わせて247名の生徒達が学んでいる(2020年2月時点)。

コロナウイルスの関係で3月半ばから休校中。

- (3) 子どもの健康診断事業

9月に子どもたちの健康診断を行った。また、定期的に健康診断をすることの大切さをシンポジウムを開催し広く関係者に伝えた。

- (4) ミヨベプロジェクト

支援する地区25世帯124名と地区内幼稚園の子ども達の家庭は、自立できる産業がなく日雇い労働で貧困層が多いこと、山間部のため給水が極めて悪く子ども達の衛生状態や栄養状態も悪いことが問題の地区である。そのため、今回のコロナの影響をかなり受けてしまった。

- (5) ルワンダでの講演活動

8月に開催されたピースコンサートの時や日本人がルワンダにきた時など3回ほど講演をした。それがきっかけで、インターンとしてルワンダ事務所を手伝ってくれることになった学生もいた。

- (6) 異文化理解のためのイベント事業 **Rwandaful Summer2019** (7/15) 郡山市中央公民館

1部では、活動報告の他、スタディツアー参加者の学生やルワンダ初渡航の理事の体験発表があった。2部ではManiMartin(マニマーティン)さんとDaisuke katsumataさんの音楽セッションがあり、その後、郡山ザベリオ学園のコーラス部の子ども達とウムチョムイーザ学園の子ども達をスカイプでつなぎ、一緒に歌を歌ったりした。

次の日から、郡山市うすいデパートで約1週間ルワンダウィークも開催された。

- (7) 「ルワンダ写真展 IN ふくしま」: 2020/1/6(月)～11(土)開催

今年は、街なか夢工房の方々の協力で「夢詰麦パン」の販売をした。また、最終日のルワンダ報告会では、元ラジオ福島アナウンサーの大和田新さんと、なかよし学園校長の中村雄一さんファミリーのルワンダ渡航の体験報告などもあった。

- (8) 東日本大震災復興支援事業のルワンダカフェを7回開催した。

収入の部 2019.4.1～2020.3.31		
科目	合計	備考
1.会費	1,245,000	正会員・賛助会員
2.寄付金	6,965,978	月500円・奨学金・給食サポート・ミヨベ農業支援等
3.助成金	1,000,000	健康診断プロジェクト
4.事業収入	5,734,984	講演・コーヒー・紅茶
5.その他	12	預金利息
収入合計	14,945,974	
支出の部		
科目	合計	備考
1.NGO事業費	5,503,994	学園・キミロンコ・ミヨベ・健康診断
2.NGO事業経費	3,247,233	現地活動費・経費
3.国内事業費	5,038,984	コーヒー・紅茶仕入れ・イベント経費・講演旅費等
4.管理費	5,058,544	事務所経費等
支出合計	18,848,755	
前年度からの繰越金		4,811,675
次年度への繰越金		908,894

2. 2020(令和2)年度事業計画

(コロナの影響でどこまでできるかわかりません)

- (1) ウムチョムイーザ学園とその周辺地区の子ども達の支援事業
- (2) 子どもの健康診断事業
- (3) ミヨベプロジェクト
- (4) 学校保健プロジェクト
- (5) その他、年度内開催をめざし、

Rwandaful Summer2020, ZOOM 講演ほか実施予定



2020 年度役員紹介

理事長 永遠瑠マリールイズ
 副理事長 倉持睦子
 副理事長 穴戸なつ美
 理事 大槻美智子
 理事 佐野孝治
 理事 鈴木恵子
 理事 望月優子
 理事 大寺智子
 監事 菅野直芳

事務局長
 永遠瑠ルーシー

NPO法人ルワンダの教育を考える会ルワンダ事務所からの報告

ルワンダ支援の会計報告

* 2020 / 5 / 15 現在時価換算による

期間：2020年1月～4月

単位：円

ADESOC ウムチョ ムーザ学園	ミヨベ プロジェクト	ルワンダ 事務所	計
952,262	231,281	517,684	1,701,227

※ 日本の円をルワンダへ送金すると、日々金額が変動するので、報告額を単純に比較できないので、おおよそのお金の動きとしてご理解願います。今回は 100 ルワンダフラン≒11.23 円で表記します。

ルワンダ事務所より 永遠瑠マリールイズ

〔 2020年1月～4月 プロジェクト支援報告 〕

1 ADESOCへの支援

ウムチョムーザ学園の運営母体であるADESOCに、要請に応じて、当会のルワンダ事務所から出来る範囲の支援を行っています。

2020年1月6日学園の1学期が始まりました。年度初めにあたり保護者会を開催し、学校運営への協力と子どもの教育についてお互いの役割について話し合うことが出来ました。

学園にて3.11東日本大震災追悼式を行いました。

3月末からコロナの影響により、ルワンダの学校全体が休校に入りました。学園では先生方と話し合い、リモート授業やプリント配布により子ども達のフォローが出来るようになりました。



2 ミヨベプロジェクト



当会のルワンダ事務所をとおり歴史的に取り残された地域と言われる再貧困地区ミヨベの入学前の子ども達に給食を続けています。

また、栄養失調をなくすために保護者への野菜作りの指導等自立支援を続けています。本会会員大河原さんを中心とした募金でジャガイモの種を購入することが出来ました。衛生教育を行うにも読み書きが最低限出来るように保護者対象の識字教育も取り組み始めました。

ロックダウン解除後には当会事務所でご飯をつくり直接ミヨベに届け、子ども達の笑顔を見ることが出来ました。



3 当会ルワンダ事務所の役割

ルワンダ事務所の大きな役割は、現地のニーズやそれに応えていくための様々な情報を日本と共有して、NPO法人の目的を成し遂げていくことです。

事務所管理・運営費のほかに、学園卒業生10名への奨学金や 3.11 東日本大震災追悼式の運営費、コロナによる緊急サポート費用が含まれています。

最後に、ルワンダの子ども達の教育に力を注いでくださっている皆様に感謝しています。皆様の協力によって持続可能な平和と発展は毎日感じています。これからもよろしくお願いします。



ウムチョムィーザ学園報告（1学期）

○ 2020年1月1日～4月30日 学費の納入状況報告

生徒数：221名（3学期より26名減）

学費計画：1学期100,000ルワンダフラン×221名

完納	58名
一部納入	95名
全額未納	68名

* 2020/4/30 現在時価換算による。



	予算	決算	
2020年1学期学費収入	2,464,520 円		
2020年1学期納入額		1,013,190 円	41.1%
2020年1学期未納額		1,451,330 円	58.9%
前年度までの未納分納入額		203,708 円	

（1人あたり＝1学期100,000ルワンダフランを約11,151.7円に換算）



○ 2020年1月1日～4月30日 学園会計報告

〔収入〕

〔支出〕

円換算

項目	金額	項目	金額	項目	金額
学費【前年度未納分も含む】	1,216,898	職員給料	1,062,570	広報費	0
入学登録料	17,843	職員ボーナス	0	住民税	8,492
学校保険掛金	0	年金掛金	157,404	交際費	56,316
給食費収入	181,215	健康保険料	206,595	銀行手数料	2,172
ピアノレンタル収入	0	国税	320,691	制服布地	43,280
制服・学用品販売	26,764	給食経費	315,036	銀行借入返済	0
制服作成室賃貸	0	光熱水費	17,285	職員へ前貸し	0
多目的室賃貸収入	0	通信費	27,099	出産休暇保障	11,804
アンテナ収入	0	消耗印刷費	80,552		
水販売収入	0	旅費交通費	104,770		
その他の収入	0	会議・研修費	35,440		
考える会からの支援	892,134	施設維持費	74,823		
個人寄付	141,392	弁護士料	93,340		
補助金	0	生徒医療保険	1,394		
繰越金	222,253	備品購入	66,910		
個人からの返済	0	建設修理費	0		
銀行借入金	245,726	小計	2,563,909	小計	122,064
合計	2,944,225			合計	2,685,973



残金 258,252

2020年1月から、1学期が始まりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により3月末から休校になり、リモート授業やプリント配布を行っています。国の制度改革により、9月から12月までまた1学期が始まります。つまり、2020年は1年間1学期の勉強をすることになります。



ルワンダの旅



すくも た きょうこ
糀田 京子

会員になって半年もたたないで、旅のチャンスが訪れました。新型コロナウイルス感染症が騒がれ始めた2月だったので苦渋の選択でキャンセルと続行に分かれ、後者の組で10日間の日程を終え滑り込みセーフといおうか、1日遅れで飛行場閉鎖とならず無事帰って来ました。

キャリーバックに教材や衣類を詰めて運ぶ、このぐらいのお手伝いなら出来ると新調した大きなキャリーバックにギューギューに詰めて運ぶ自分をシュミレーションしていましたが、ユーパックで羽田までそれからルワンダまで空輸でしたので運ぶという認識のズレを後でしみじみ気づき運ぶボランティアは「気負い」でしかありませんでした。往復の2日間を除く8日間、暑いと思った日はありましたが大方涼しく思ったより快適な日々でした。

福島から2人と現地ルワンダから1人で、ルーシーさんがツアーコンダクターとなりいろんなところを見て回りました。勿論ウムチョムイーザ学園、標高の高いミヨベ地区の子ども達の施設、そこでの元気な子ども達の声、恵まれた環境でなくとも、先生と一体となって学ぶ子ども達のつづらな瞳、教育の大切さを訴え実行継続されているマリールイズさんの情熱を感じながら、改めて尊敬の念を抱いたのでした。



ウムチョムイーザ学園の生徒

アフリカの地に着いてまず水の不便や電気の暗さを感じました。都市部ではトラックやバスなど見かけますが、村では自転車が押しつぶされそうにうずたかくバナナを積み運んでいたり、子どもが頭に荷を載せ歩いている光景には、リヤカーや一輪車など所有できないものかと感じました。



調理場 カマド



紅茶畑

見て聞いて感じてきたアフリカの旅は、未知のアフリカの視野を広げ刺激的で大変勉強になった素晴らしい旅となりました。



きゅうり畑

政府からコロナ支援金を戴いたばかりなので会の大幅減収の実態に（全額とはいきませんが）寄付させていただきました。

2020年6月 77歳

福島市在住



ルワンダの教育を考える会事務局長のルーシーさんとともに従妹と私と3人で、2020年2月22日午後2時22分発の新幹線で福島を発ち、成田空港22時22分発の飛行機でルワンダに向かいました。翌日の16時頃キガリ空港に到着、ルイズさんのお姉さんや事務所の方が迎えに来てくれました。

すぐに車で事務所に行き夕食はI da さんの手料理をご馳走になりました。すべて出された物は美味しかったです。特にジャガイモが日本よりもサッパリホクホクでとっても美味しかったです。バナナやパイナップルなど果物の美味しいこと、日本では味わえない味です。夕食後ホテルに送ってもらい、ベッドには蚊帳が吊っており、夜中は寒かったので目を覚まして風呂敷をかけて寝ました。

初日はルワンダ大虐殺記念館を見学、神戸大学杉山教授と一緒に、丁寧に説明してもらい、大勢の人が殺されて埋葬されたお墓も見学出来ました。あれほど多くの人たちが殺されたのですから恐ろしい出来事に背筋が寒くなる思いでした。



その次の日はウムチョムイーザ学園の授業を見学、学ぶことがうれしく目が輝いている子ども達の人なつっこくてとても可愛かったです。休憩に入って外に出たら元気いっぱいの子供達に囲まれ、身動きが出来なくなり倒れそうになりました。その後、標高が高いところにあるミヨベの学校も見学しました。一生懸命学ぶ姿に感動しました。

その次の日は博物館を見学、昔の農具やお金なども展示されていました。その後太鼓の演奏と踊りが素晴らしかったです。野菜畑に行くとキュウリ、にんにく、かぼちゃ、レタス等いろいろ植えてあったところを見てきました。

次の日はアカゲラ公園に行きシマウマ、インパラ、キリン、カバ等を草原の間近で見せていただいたのはなかなか出来ないことでした。

最後の日は、昔の王様の家を見学、屋敷内で女性の方が敷物とか鍋敷きなどを編んでいました。

7日間いろんな素晴らしいところを見ることが出来、高齢ではありますが・・・不思議となぜか長いフライトでも疲れもしませんでしたし、時差ボケにもならず楽しむことが出来ました。



赤道直下なのに福島の蒸し暑さはなく、日中も汗もかかないし夜も涼しく快適に過ごすことが出来ました。それから夕食は毎日I da さんの手料理で美味しくいただきました。ジャガイモや果物は美味しくヘルシーで日本に帰っても毎日食べたいと本気で思いました。

まさか人生の中でルワンダという国に行けるとは夢にも思いませんでした。今でも夢にまでジャガイモ・バナナ・パイナップルが出てきます。ルイズさんとの出会いに感謝です。そして同行し面倒を見て下さったルーシーさんにとっても感謝しています。毎年でも行きたい気分です。今度は、もっと深くルワンダのことを知りたいと思いました。皆さんも、百聞は一見に如かずぜひ自分の目で身体でルワンダの素晴らしさを感じてみてください。



帰国後、全世界に新型コロナウイルスが広まりルワンダの状況もとても心配です。

令和2年6月29日

まちなか夢工房がつくる、幸せをつむぐ食パン「夢詰麦」...

美味しいパンを食べることで

ウムチョムイーザ学園の子ども達の支援へ...



まちなか夢工房とは？

2003年10月～2015年3月

NPO 法人シャロームが福島市の委託事業「障がい者コミュニティサロン事業」を受託しスタート。サロンのメイン事業とし、障がい者が焼き立てのパンを製造販売。

「市民との交流の場、緊急避難の場、福祉の情報発信基地」としての役割をもって運営。

2015年4月～ 一般社団法人シャローム福祉会に事業を引き継ぎ、

障がい者の就労を応援する施設として運営形態を変更。

オープン当初から17年間、街のパン屋さんとして

地域の方々に親しまれてきた。



幸せをつむぐ食パン「夢詰麦」の誕生

- ・2か月間試食でレビューを集める
- ・ネーミングから配合に至るまで地域の皆様と作り、焼き上げた
- ・1斤売り上げ毎に30円をルワンダの教育を考える会に寄付
- ・一週間の限定予約販売だったが、再販希望の声にお応えし9月から正式に販売決定

【ルワンダの教育を考える会との繋がり】

福島市に事務局を構え、店舗オープン時から交流し、親睦を深めてきた。

関わってくださる皆様と一緒に作った体に優しい、美味しい、笑顔になる食パン「夢詰麦」が、ルワンダの子ども達の**笑顔と未来の架け橋**になっている。

体に優しく美味しいパンを食べることが、ウムチョムイーザ学園の子ども達の支援になります！

障がいをもつ仲間たちが作り手となり、地域の皆様と共に開発し、一斤販売すると30円が

ルワンダの教育を考える会により、ウムチョムイーザ学園に寄付され、学校給食一食分が

提供される。「夢詰麦」の活動が国境を越え、「公平な教育」と

「就労環境」を創造し、人と人が繋がり幸せが

循環する未来を紡いでいきます。

みんなの力が合わさることで思いやりと優しさの循環が生まれ、
誰一人として取り残さない温かな未来を繋いでいけると信じています。



まちなか夢工房

福島市本町5-31

TEL 024 (524) 2230

FAX 024 (525) 8285

OPEN 11 : 00

CLOSE 16 : 00

夢詰麦ホームページ QR コード
こちらからパンのご注文賜ります



コロナ緊急募金のお願い

コロナウイルスの影響で予定していた講演会やイベントが次々とキャンセルになり、収入が激減しています。子ども達のために、やりたくても予算を組めないものがあり、たくさん子どもたちの保護者が失業して学費や給食費が払えなくなったケースもでています。

ミヨベでは、このままだと、また栄養失調になる可能性もあります。

皆様、どうか今年度を乗り切るために、力をお貸してください。

当会では、今年度「コロナ緊急募金」として、皆様にご協力をお願いします。

募金は、「コロナ緊急募金」と記載の上、下記口座までお振込みください。

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO 法人 ルワンダの教育を考える会

みんなで力を合わせてこのコロナ危機を乗り越え、20年の

歩みを止めることなく、進んでいきましょう！

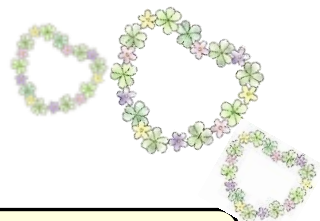


★各種振替口座番号のご案内です！★

会費振込・寄付・募金

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会



【ゆうちょ口座自動振込み寄付】 月一口500円から

ホームページ掲載 目標100名まで継続して募集します。現在63名登録

—編集後記—

新型コロナウイルスの第2波が心配されているこの頃です。新しい生活様式は慣れましたでしょうか？1日も早く治療薬が開発されることを祈っています。



T.S



NPO法人ルワンダの教育を考える会

理事長 永遠瑠マリルイズ

〒960-8036

福島県福島市新町8-21

TEL:024-563-6334 FAX:024-563-6335

ホームページ：<http://www.rwanda-npo.org>

福島 m a i l :info@rwanda-npo.org